

第1回 あかし女性の活躍推進会議（議事要旨）

日 時

平成28年5月11日(水) 14:00～16:00

場 所

あかし男女共同参画センター 会議室3

出席者

田端委員、正木委員、小河委員、崎野委員、高岸委員、堂本委員、荻野委員、藤原委員、松原委員、松本委員、森委員、阪口委員、瀬尾委員、大川委員

議 事（要旨）

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

- ・ この会議で議論を、予算の配分や制度改正を含めて、できない理由を考えるのではなく、実現する方法を考え、施策に反映させたい。
- ・ 会議のテーマは「女性の活躍」だが、男性と女性がいる以上、両方で社会を形作ることが当たり前である。
- ・ 女性が大切であるというメッセージのみの発信でなく、予算、施策の面で形にする段階が到来している。
- ・ 提案内容について、できる限り形にする方向で調整をするので、積極的に発言、提案をいただきたい。

4 委員の紹介

5 市出席者の紹介

6 会長及び副会長の選任

会長に正木委員、副会長に田端委員を選出

7 会長あいさつ

- ・ 各委員は多くの経験、活躍をされているので、活発な議論をし、多様な意見を出していただき、有意義なものにしていきたい。
- ・ 新緑のエネルギーと輝きに負けないような議論をし、その議論を踏まえて実践的な提言をしていきたい。

8 議事

- (1) 女性が働き続けるために必要な環境整備、仕組み等について
事務局から資料説明（資料4）
- (2) 今後のスケジュールについて
事務局から資料説明（資料5）

委員から出された意見の概要

女性を取り巻く現状と課題について委員間の情報共有を行うとともに、今後の女性活躍推進に向けた方策等について、意見交換を行った。

1 女性を取り巻く現状と課題

○労働環境

- ・ 女性職員の数は多いのに、管理職になると男女比率が逆転する。
- ・ 管理職は長時間労働が多いことを理由として、女性は管理職になることに消極的になっている状況がある。
- ・ 母子家庭が増えているが、非正規雇用が多く、給与水準が低い職業を選択することが多い。諸外国と比べ、男女の格差が大きく、社会の中で女性が適切に所得を得ていない状況がある。
- ・ 在宅勤務は、ライフイベント等に柔軟に対応することできるなどのメリットがある。女性の働き方として可能性を感じる。
- ・ 「130万円の壁」の存在は、女性の積極的な就労を妨げている。解消に向けて検討が必要である。

○子育てとの両立

- ・ 女性が働きやすい環境を整備するため、事業所内保育所を設置した。病児・病後児への対応も行っている。職員の世代構成の偏りが是正された。
- ・ 認可保育所が充実した結果、認可外保育所のサービス競争が過熱し、保育料の高騰や、保育士への負担増を招いている。
- ・ 保育施設の整備に対し、保育士の確保が間に合っていない。
- ・ 保育士の処遇改善と潜在保育士の掘り起こしが必要。他市に保育士を取られないような対策が必要。

- ・学童保育として利用できる施設が少なく、待機児童が多い。
- ・学童保育の保育時間外や悪天候時等、預かってもらえない児童への対応として、休日、長期休業時にのみ事業所内で学童保育を設置した。
- ・学童保育の指導員の給料が安すぎる。処遇改善が必要。

○介護、地域活動等における女性の関わり

- ・介護の現場では、老老介護が多く見られる。
- ・子ども会や消費者団体など、地域活動を行うボランティア団体の構成員は、女性が圧倒的に多く、女性が活躍している。
- ・自治会の代表は、男性が多い状況である。

2 課題解決に向けた方策の検討

○子育て基盤等の整備

- ・市内の全幼稚園を認定こども園にしてはどうか。
- ・複数の事業所が共同して事業所内保育所を設置してはどうか。
- ・保育士の確保策として、保育を離れている有資格者が復帰するための研修を行ってはどうか。
- ・休暇等を充実し、保育士が働きやすい職場環境の整備を行ってはどうか。
- ・地域の高齢者を保育所や学童保育で活用したり、高齢者の自宅で見守り保育を行う仕組みを検討してはどうか。

例) 月謝を受け取り、児童に習字や料理などを教えながら見守り保育をする。

子育て支援センターにて、保育士のサポートを受けながらボランティアを行う。

- ・高齢者と若い世代の地域内でのニーズのマッチングが必要。

○事業所に向けた働きかけ

- ・長時間労働の解消、時間外勤務の削減に向けた取り組みが必要である。
- ・男性の育児休業の取得促進は、意識改革に非常に重要である。
- ・「イクボス」を育成することにより、子育てや介護への理解を深め、意思決定の場に関わる女性を増やしていくことが必要である。
- ・産業団体への働きかけを行うなど、女性の活躍推進の機運醸成のための広報活動を行っていく必要がある。
- ・明石市の公共調達における女性活躍推進企業評価制度は、いい取り組みだと思う。

3 その他の意見

- ・これから社会を担っていく若者たちへのアプローチ、子どもを持たない選択をした女性の活躍も考えていく必要がある。

- ・「女性活用」という言葉を多用するのはマイナスである。女性活躍には男性の協力が欠かせない。サポートする男性の育成も必要である。
- ・働く女性が休暇を取らなくても子どもに関する手続きや検診が受けられるよう、土曜日に検診を行うなど、検討できないか。

9 閉会